

駒林小 学校便り

平成29年度

2月号

2月1日発行

非日常での体験

副校長 重泉 正昭



先日22日(月)は大雪が降り、見渡す限りの銀世界となりました。翌朝の学校は運動場が真っ白で、足を踏み入れるとふくらはぎの半分ほどまでズボッとめり込んでしまいました。南門から玄関までが、とてつもなく長く感じました。それほど今回の雪はとても軽く、雪遊びにはもってこいの状況でした。

私も、雪での思い出が心に強く残っています。教師になって6年目。6年を担当していた時、今回以上の雪が降りました。その時の学校は裏の丘に広大な公園を有しています。「明日は絶対にそこに行くぞ。」と心に決め、前日は子どもたちに持ち物や着替えなど徹底して指導しました。当日、二転三転さまざまなことがありましたが、やっとの思いで行くことができました。広大な敷地はまだ誰も足を踏み入れてなく、子どもたちは歓喜のうちに飛び出しました。その時、神奈川新聞社の記者がちょうど取材に来ており、自分のクラスが取材を受けることになりました。子どもたちは喜んでいましたが、私は、どんな記事が書かれるのかと気が気ではありませんでした。次の日の朝刊、大きな写真と共に記事が載っていました。恐る恐る読んでみると、「〇〇小学校、6年3組の特別課外授業が始まった。」という出だいで、とても好意的に書いてくださっていました。

先日も、子どもたちには今までに見たことがないような笑顔があふれていました。先生も童心に返り、子どもたちとふれあう姿が、本当にほほえましく、うらやましく感じました。教師と生徒(児童)の本来あるべき姿を垣間見た気がしました。

12日(金)には、たてわりで正月遊びを行いました。福笑いや凧揚げ、羽根つきなど今ではあまり見られなくなった遊びを楽しみました。単純な遊びでも、みんなでやるととても楽しく感じます。また、昔は近所にいる異学年の集団で遊んでいましたが、今では同学年で遊ぶことが多くなりました。そういったところも楽しさにつながっていると思います。

19日(金)には、6年生が日吉台地下壕に出かけました。以前は駒林小も見学に行っていたのですが、ここ数年途絶えていました。自分たちの住むまち日吉に、これほどの戦争遺跡があることを知り、そして保存の会の方から様々な説明を聞き、平和への思いを新たにしました。子どもたちも話を聞き、本物にじかに触れ、さまざまな想いを持つことができました。

20日(土)には、フレンドパーク主催の「みんな de フレンドパーク in 駒林」が行われました。ここでは昔遊びのほか、お餅つきが行われます。お餅をつくという体験も少なくなり、つきあがったお餅を丸めたり、あんこや黄な粉をまぶしたりする経験も少なくなりました。つきたてのお餅のやわらかさやおいしさを知らない子も、数多くいるのではないのでしょうか。

こういった普段できない経験、今ではされなくなった体験が数多くあります。しかし、その中には大切な価値を持っているものが少なくありません。普段あたり前のように接しているものと、普段は接しない非日常的なもの、どちらからも学ぶことができると思います。これからもぜひ継続し、守り続けていきたいとあらためて感じられた一ヶ月でした。